

# ストレートプレイ[カエル行進曲♪] 募集要項

## 【公演概要】

「カエル行進曲♪」

主催：Can'oly Company 脚本：ユキ 演出：間聖次朗 制作：株式会社 BLuno

日程：2024 年

6月13日～16日（全6～8公演を予定）※学校を優先したスケジュールを組みます

会場：池袋シアターグリーン

東京都豊島区南池袋 2-20-4

チケット：4,000～5,000 円を予定

稽古：5月都内近郊

## 【募集配役】

全8役募集（ダブルキャストを予定）：小学3年生～中学3年生対象

- 桃(女)…自分に自信がない。華やかな幼なじみとおとなしい自分を比べて、自分の価値を低く感じてしまうところがある。
- 透子(女)…両親からの関心・愛情に飢えている。弱さを隠すため、他人に対して攻撃的になりがち。
- クロエ(女)…外国人の父と日本人の母の間に生まれ、数か月前に日本に来た。積極的で率直にものを言うが、慣れない日本生活で疎外感を感じている。
- 瑞希(女)…親に代わって寝たきりの祖母の世話をしなければならず、ほとんど学校にきていなかった。料理が得意。
- 緑(女)…風変わりなところがある。カエルが好きで詳しい。
- 葵(男)…数か月前に転校し、今は別の学校に通っている。少しナルシストなところがあるがみんなの人気者。性別に違和感がある。
- 朱里(女)…桃の幼なじみで、桃が大好き。桃とは別のクラブ（チアリーディングクラブ）に入って華やかに活動している。クラスも別。
- 紫音(女)…震災を経験しショックで歌えなくなったアイドル。素性を隠して桃たちの学校に転校して、絵画クラブに入る。

## 【応募方法】

①お名前/②学年/③身長/④プロフィール/

⑤自己PR/⑦電話番号/⑧住所（区市町村まで）/⑨動画

※希望役の台詞動画を YouTube 限定公開して、URL を下記アドレスにお送りください。

※歌やダンスが得意な方は 30 秒～1 分程度の歌唱動画、ダンス動画も台詞動画に繋げてお送りください。

## 【お問い合わせ】

canolycompany@bluno.biz

※締め切りは 3 月 20 日

[台詞課題]※好きな役を選んでください。

◆桃

「葵くんみたいに、自分に自信があったらいいのにな、って思うんだ。葵くんだったら、親友に引け目を感じることもないだろうし、部長なんか余裕で出来ちゃうだろうし、出し物だってあつという間に決めちゃうんじゃないかな。どうしよう。出し物…全然決まってない。」

◆透子

「何よ！ 知ってるみたいなこと言わないでよ！ 私の気持ちなんか、だれにもわかんないよ！ 私はずっと一人で戦ってた。私の居場所なんかどこにもなかった。私はずっと一人で平気だったの。一人でいれば、誰かに期待することもなかった。勝手に期待して、失望することもなかった。なのに、あんたたち、いつもずかずか私の気持ちの中に入ってきて。誰かと一緒にいることが楽しいなんて気持ち、知りたくなかったのに！」

◆クロエ

「ほらまた！ 日本人、いつもそう！ キモチ、はっきり言わない、喋らない。空気、感じて、と言う。空気読んで、と言う。空気は吸うものでしょ！ それに今、桃が言ってたのは、桃の想像でしょ？ 瑞希がそう言ってたの聞いたわけじゃないんでしょ。どうして桃が瑞希の気持ちを決める？」

◆瑞希

「もしもし。うん。うん。大丈夫。もうやった。わかってるよ。大丈夫だって。学校？ 行ったよ。通知表？ うん。成績あがってるわけじゃないじゃん、授業出てないし。いいよ、わかってる。あ、お母さん。あのね、夏休み中に学校のクラブの…ううん、なんでもない。なんでもないってば。冷蔵庫にごはんあるよ。あつためて食べてね。」

◆緑

「そう、みんなアマガエル。お父さんお母さん違う、生まれた場所や食べるもの違う、色や形違う、でもみんなアマガエル。種類同じでも、このカエルとこのカエルは違うカエル。同じに見える？ よく見て。どっちもアマガエルだけどちょっとずつ違う顔してるよ。緑もクロエも桃も、みんな人間、でも違う人間。変？」

◆葵

「お久しぶり！ と言っても、転校してまだ半年もたってないんだけど、すごい懐かしく感じるなあ。キャンプの出し物、練習してたんでしょ？ なんか、行き詰ってるって聞いたから。どう？ 参考になった？…なんだ、残念。」

◆朱里

「クラブ決める時、一緒にチアやろう、って言ったのに、桃がチアじゃなく絵画クラブ入るって言うから、私、寂しかった。小っちゃい時からずっとなんでも一緒にやってたのに。でも、桃は絵を描くの好きだから絵画クラブなんだと思ってた。なあんだ、私と一緒にいるの、嫌だったんだ。ショック。」

◆紫音

「私がただひらひら歌って踊ってるだけじゃ、何の役にも立たない。本当に必要な事、何もできてないじゃない、って。歌おうとすると、あの景色が目に見えなくて、苦しくなって…。気が付いたら声が出なくなっちゃって。もう、お仕事できない。歌えない。っっておもったの。」